

## 第2章 「生涯学習に関する実態調査」から

---



## 1. みどり市民の生涯学習に関する要求

みどり市の生涯学習の構造については第1章5.のとおりですが、個人の学習活動全体を把握することはできません。そこで、平成20(2008)年6月に実施した『生涯学習に関する実態調査』<sup>解説17</sup>(以下「市民アンケート」という。)から生涯学習に関する市民の要求を探っていきます。

まず、市民が学んでみたい(学習活動をしたい)とする理由(2つ以内の回答)についてです。回答者の619人(85.47%)から回答がありました。全体では、「健康・体力づくりを」が1位。以下「生きがい」、「趣味を豊かに」、「人間関係を豊かに」、「必要な知識を得る」と続き、これがベスト5です。また男女別では、1位は共に「健康・体力づくり」でしたが、女性は「人間関係を豊かに」、「生きがい」、「趣味を豊かに」、「必要な知識を得る」と続き、男性では「趣味を豊かに」、「生きがい」、「人間関係を豊かに」、「社会に役立つ活動」という結果でした。

年代別では、各年齢共通して「健康・体力づくり」がトップ。2位については、20歳代が「人間関係を豊かに」、30歳代から50歳代では「趣味を豊かに」、60歳代・70歳以上では「生きがい」という結果でした(表-1)。

また、学習方法に関する設問(2つ以内の回答)では、全体、女性、男性共に1位「公民館等講座」、2位「サークル・グループ」、3位「テレビ・ラジオ」となっています。年代別でも1位は「公民館等講座」なのですが、2位に関しては、20歳代・30歳代が「テレビ・ラジオ」、40歳から60歳代が「サークル・グループ」、70歳以上では「団体活動」。3位では20歳代・30歳代・70歳以上が「サークル・グループ」、40歳代・60歳代が「テレビ・ラジオ」。

表-1 学んでみた(学習活動をしたい)理由

全体	n =	619
健康・体力づくりをしたいから	275	44.43%
生きがいを持つために	192	31.02%
趣味を豊かにできるから	190	30.69%
人間関係を豊かにできるから	170	27.46%
必要な知識を得るため	86	13.89%

女性	n =	198
健康・体力づくりをしたいから	99	50.00%
人間関係を豊かにできるから	56	28.28%
生きがいを持つために	55	27.78%
趣味を豊かにできるから	54	27.27%
必要な知識を得るため	38	19.19%

男性	n =	414
健康・体力づくりをしたいから	173	41.79%
趣味を豊かにできるから	135	32.61%
生きがいを持つために	134	32.37%
人間関係を豊かにできるから	110	26.57%
社会に役立つ活動をするため	52	12.56%

表-2 希望する学習方法

全体	n =	661
公民館などの講座・行事	351	53.10%
サークルやグループなど	212	32.07%
テレビ・ラジオなどを利用してひとり	147	22.24%
民間で行う講座・講演会・行事など	120	18.15%
婦人会・老人会など団体活動で	105	15.89%

女性	n =	215
公民館などの講座・行事	129	60.00%
サークルやグループなど	60	27.91%
テレビ・ラジオなどを利用して	42	19.53%
婦人会・老人会など団体活動で	37	17.21%
民間で行う講座・講演会・行事など	35	16.28%

男性	n =	442
公民館などの講座・行事	218	49.32%
サークルやグループなど	147	33.26%
テレビ・ラジオなどを利用してひとり	105	23.76%
民間で行う講座・講演会・行事など	85	19.23%
婦人会・老人会など団体活動で	64	14.48%

解説17 『生涯学習に関する実態調査』：市内2,000世帯を抽出し実施。回収数725、回収率36.25%。

50歳代が「民間講座」という結果でした(表-2)。

さらに、希望する活動時間帯については、女性が「平日午前」(27.90%)、「平日午後」(23.18%)、「平日夜間」(18.88%)の順。男性は「平日夜間」(28.63%)、「休日午前」(18.67%)、「平日午後」(14.32%)の順でした。また、年代別でのトップは20歳代から50歳代は「平日夜間」、60歳代「平日午前」、70歳以上「平日午後」という結果でした。

生涯学習の充実策(3つ以内の回答)について聞いたところ、「公民館などでの学級講座の充実」と「子どものころからの体験学習の充実」が、他の選択肢を大きく引き離し、老若男女を問わず1・2位を占めました。

以上のことから、性別や年代に関係なく、“健康・体力づくり”が学ぶ理由のトップであり、身近な施設で、経費の余りかからない公民館や図書館などの公共施設を利用して、仲間と共に学習活動をしたいと考える市民が多いことが伺えます。活動時間に関しては、就業時間の関係で「平日夜間」を希望する市民が多いのですが、「平日昼間」(平日午前と平日午後)を活動時間として希望する60歳代以上の市民や子育て世代の女性も少なくないようです。また、「休日昼間」を活動時間とする市民も比較的多くいることもわかりました。

## 2. 「生涯学習に関する実態調査」の結果

### 質問1 回答者について

配布数2,000に対し、回収数725。回収率36.25%となった。

回答者の性別・年齢については(表-3)のとおり。

回答者の3分の2を男性が占めている。世帯主宛に郵送し、「ご家庭内のどなたかお一人が回答ください」としたことが影響しているものと考えられる。

また、回答者の70.90%が50歳以上の市民である。性別同様、これも調査依頼方法が影響しているものと考えられる。

表-3 回答者の性別・年齢構成

	全体		女性	男性
	回答者数	回答者に対する割合	回答者数	回答者数
10歳代	0	—	0	0
20歳代	25	3.45%	10	15
30歳代	81	11.17%	37	44
40歳代	101	13.93%	35	66
50歳代	179	24.69%	57	120
60歳代	191	26.34%	48	140
70歳代以上	144	19.86%	45	94
無回答	4	0.55%	1	3
<b>合計</b>	<b>725</b>		<b>233</b>	<b>482</b>
<b>割合</b>			<b>32.14%</b>	<b>66.48%</b>

### 質問2 「生涯学習」という言葉・意味の認知度について

「生涯学習」という言葉・意味を「知っている」(「よく知っている」と「だいたい知っている」との回答者)とした市民は、60%弱。「聞いたことがある」と回答した方を含めると90%弱。逆に「知らない」(「知らない」と「わからない」との回答者)は10%強。市民によってよく耳

にする言葉になったことが伺える。

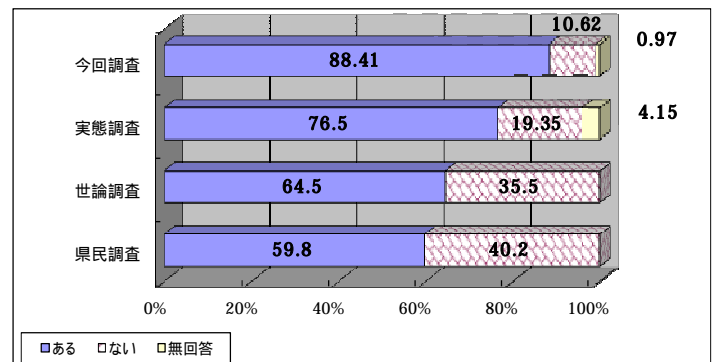
年代別にこの傾向をみると、加齢とともに認知の度合いが高まっている。また、40歳代を境に、“知らない”の割合が低くなっていた。

『生涯学習県民意識調査』（以下「県民調査」、平成2年9月、群馬県生涯学習センター）と『生涯学習に関する世論調査』（以下「世論調査」、平成4年2月、総理府内閣総理大臣官房広報室）の調査から15年以上。さらに、笠懸町が平成12年4月に実施した『生涯学習に関する町民実態調査』（以下「実態調査」）からも8年が経過し、『生涯学習』という言葉の認知度は格段に高くなったといえる（図-1）。

表-4 「生涯学習」の認知度

	全体		女性	男性
	回答者数	回答者に対する割合	回答者数	回答者数
よく知っている	130	17.93%	34	94
だいたい知っている	293	40.41%	94	196
<b>知っている</b>	<b>423</b>	<b>58.34%</b>	<b>128</b>	<b>290</b>
聞いたことがある	218	30.07%	68	145
知らない	47	6.48%	22	25
わからない	30	4.14%	11	19
<b>知らない</b>	<b>77</b>	<b>10.62%</b>	<b>33</b>	<b>44</b>
無回答	7	0.97%	4	3
合計	725			

図-5 「生涯学習」の認知度比較



### 質問3 「生涯学習」と聞いた時のイメージについて

選択肢の中から3つ以内でイメージを答えてもらう設問。

多くの市民は、「趣味の活動」(37.17%)「地域活動」(34.90%)「芸術・文化活動」(23.72%)を挙げているが、「生涯にわたって行う学習活動」(33.52%)とする市民も。全体的には、「時間的・金銭的な余裕を持つ人が活動するもの」といったイメージが拭いきれないようだ。

また、「生涯学習」の認知度とイメージについてクロス集計したところ、「よく知っている」と回答した市民の43.85%の方、「だいたい知っている」と回答した市民では47.78%の方が「趣味の活動」をイメージしていることもわかった。また、「生涯にわたって行う学習活動」と回答するも、「定年退職後の趣味・活動」もイメージだとする市民も多くあった。

### 質問4 過去1年間の施設の利用について

選択肢の中から答えてもらう設問。

公民館や図書館(東公民館図書室含む)、体育施設(学校施設含む)などについては、地域の方々が主な利用者であることが伺える。文化ホールや博物館などへは、催し物の内容によって足を運ぶのが実態のようである。

また、各地域において集会施設(名称は 町第 区集会所、同公民館などさまざま)が身近な活動拠点であるようだ。

質問5 過去1年間の  
継続的活動の有無  
について

継続的な活動があったと回答した市民は17.79%。男女での経験比については、女性24.03%に対し、男性14.94%と10ポイント程度の差がみられた。また年代では、加齢とともに経験値が高くなっている。

20歳代～50歳代は、子育てや介護に携わる市民が多くいる年齢であり、さらに、女性の就業率の変化などから、参加したくてもできない、という状況も考えられる。

図-6 継続活動の有無(性別)

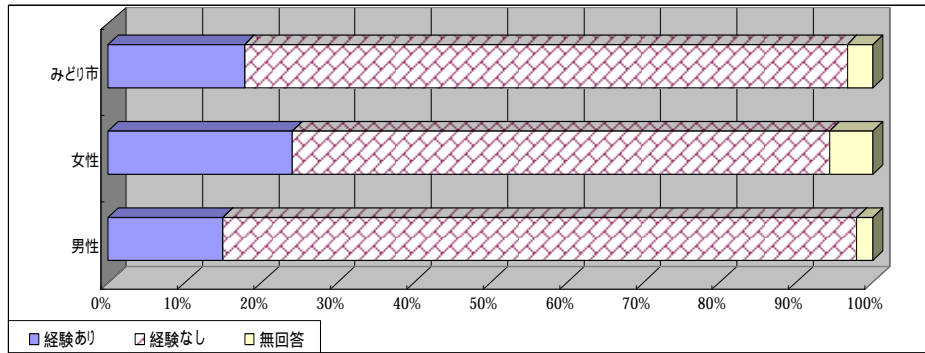
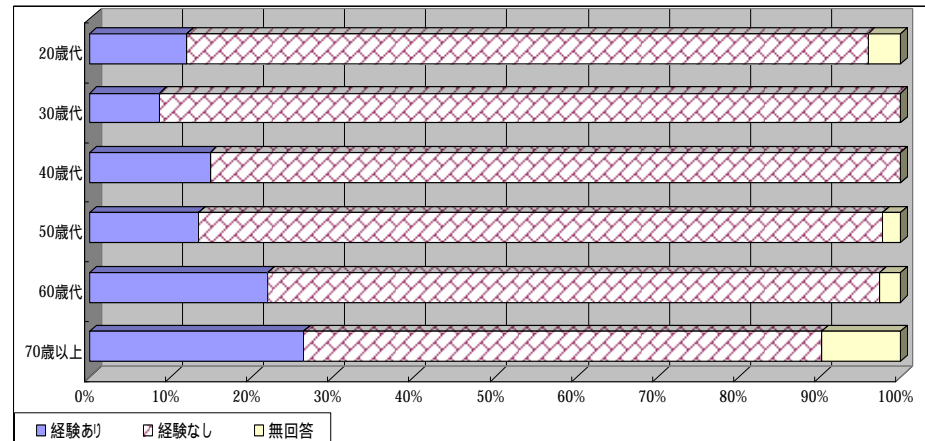


図-7 継続活動の有無(年代別)



質問6 過去1年間の継続的活動に参加経験のない理由について

質問5で参加経験なしと回答した78.90% (572人)の理由である。

すべての年齢で「忙しい」を活動しない(活動できない)理由としている。さらに「きっかけがない」「関心がない」「情報がない」のいずれかが続いている。

性別においての大きな違いは、「介護・子育てのため」を理由に挙げた市民の割合。女性が11.59%あったのに対し、男性は0.5%に過ぎない。また、「関心がない」ことを挙げた市民については、女性8.54%に対し、男性17.5%と高い割合になっている。

介護や子育てをしながら、地域や仲間との交流や活動を続けられる支援策の検討も必要ではないだろうか。

「きっかけ」に関しては、さまざまな情報の“提供”や具体的な活動や催しに“ふれる”という機会を多く持つことでも解決の糸口となると考える。また、「関心がない」については、『生涯学習』に対するイメージにも関係していると思われる。生涯学習の捉え方によっては市民の意識も変化してくるのではないだろうか。

質問7 最も関心のあるものについて

男女を問わず、20歳代・30歳代の関心ごとは「子育て」関係。加齢と共に「福祉」「ボランティア」「環境」などに関心が広がっている。

運動（スポーツ）関係では、加齢と共に軽スポーツ、レクリエーションスポーツへの関心が高まっている。

### 質問8 学んでみたい（学習活動をしたい）理由について

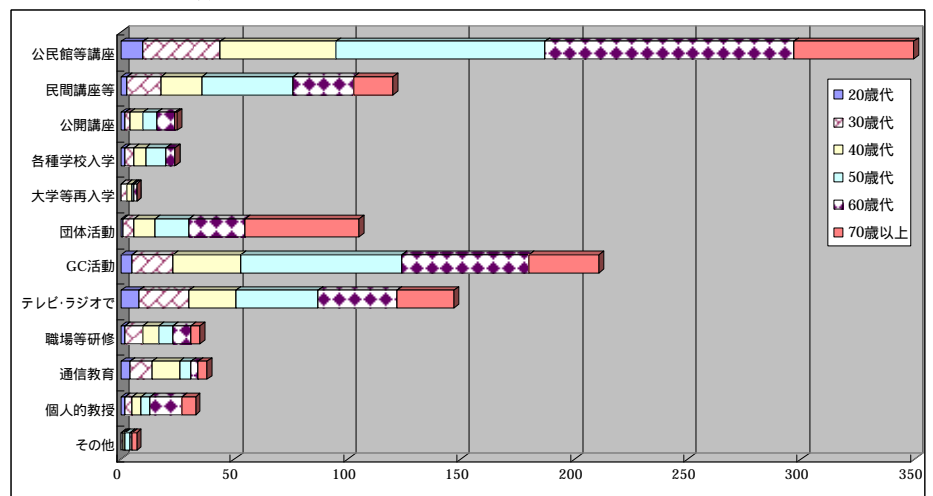
回答者の85.47%（606人）から回答を得る。学んでみたい（学習活動したい）理由として、「健康・体力づくり」がトップ。以下、「生きがい」「趣味を豊かにする」「人間関係を豊にする」「必要な知識を得る」と続き、これがベスト5となっている。

男女別では、共にトップは「健康・体力」だが、女性は「人間関係」「生きがい」「趣味」「必要な知識」がベスト5。一方、男性は「趣味」「生きがい」「人間関係」「社会に役立つ」がベスト5。また、「知識を得る」に関して、男性より女性の割合が高く、「社会に役立つ活動」に関して、女性より男性の割合が高い値であった。

### 質問9 学習方法の希望について

アンケートからは、経費が余りかからない身近な施設である公民館や県市町村施設で開催される「教室・講座」を望む市民が48.41%を占めた。これは、男女別でも年代別でも抜きんできていた。

図-8 希望する学習方法



20歳代・30歳代では、「テレビ、ラジオ」が「グループサークル活動（GC活動）」を上回っているが、それ以外の年齢層では「GC活動」が「教室・講座」に次いで多くなっている。また、加齢とともに「GC活動」を希望する市民が増えている。これは、「地域における仲間づくり」を望んでいるあらわれのひとつと推察できる。

### 質問10 活動を希望する時間帯について

活用を希望する時間帯について、女性は「平日午前」「平日午後」いわゆる「平日昼間」を希望する市民が多く、男性は「平日夜間」が多い。

20歳代～50歳代までのトップが「平日夜間」。仕事や育児などの都合で、比較的自由になる時間が夜間であると推察する。



就業形態の変化からか、50歳代から「平日昼間」の割合が増え、60歳代で「平日夜間」と逆転する。

表-5 希望する学習時間帯

	1位	2位	3位
みどり市	平日夜間	平日午前	平日午後
女性	平日午前	平日午後	平日夜間
男性	平日夜間	休日午前	平日午後
20歳代	平日夜間	休日午前	平日午前
30歳代		平日午前	休日午前
40歳代		休日午後	
50歳代		休日午前	休日午後
60歳代	平日午前	平日午後	平日夜間
70歳以上	平日午後	平日午前	

質問 1 1 生涯学習の充実方策について

生涯学習に関する充実策として「公民館などでの教室・講座の充実」を希望する市民が最多であった。学習方法の希望で最多希望であった「県、市町村、公民館などの講座・行事などで」と絡めて、みどり市の公民館配置・運営、事業展開などを考える必要がある。

女性、男性共に「学級講座の充実」「体験学習の充実」が1・2位となっているが、3位は「社会教育施設の充実」(女性)、「民間との連携協力」(男性)と異なる。男女の生涯学習に対するイメージや期待するものの違いもあるのではないだろうか。

また、20歳代・30歳代・50歳代のトップが「体験学習の充実」。40歳代・60歳代・70歳以上のトップが「学級講座の充実」となっている。昨今、各教育機関でも「体験学習」に力を入れてきている。しかし、その情報が行き渡っていない状況もあるのではないだろうか。

質問 1 2 公民館の利用について

公民館に関し、詳しい説明を行わずに実施したアンケートだったため、みどり市公民館と地区集会所(自治公民館・類似公民館)の区別なく、回答者のイメージする公民館についての回答が多くあったようである。

公民館の利用目的は、「会議」が30%弱。次いで文化祭などの「イベント」への参加(20%)、「G・C活動」(16%)となっている。

質問 1 3 公民館への要望について

要望のトップは「入りやすい雰囲気」。これは、『公民館』での「雰囲気」と『地区集会所』での「雰囲気」では、対応が違って来るものと思われる。

2位の「情報発信」に関して、館報の発行方法の違いなどがある。また、「学級講座の充実」についても、施設や職員体制に大きな違いがあるのも事実である。

表-6 公民館への要望

	1位	2位	3位
全体	入りやすい雰囲気	情報発信	学級講座の充実
女性	入りやすい雰囲気	情報発信	学級講座の充実
男性			発表の場の提供
20歳代	情報発信	入りやすい雰囲気	多数
30歳代	入りやすい雰囲気	情報発信	学級講座の充実
40歳代			発表の場の提供
50歳代			学級講座の充実
60歳代			学級講座の充実
70歳以上			発表の場の提供

利用経験の比較的多い年代では、「雰囲気」の改善と活動を含めた「情報発信」や「学級講座・発表の場」を求め、経験の少ない20歳代は、まず公民館でどんなことができるか(どんな活動



がされている)を知るための「情報発信」を求めているようだ。

質問14 大間々公民館の  
必要性について

「必要」と「できれば必要」の「必要」が「必要性を感じない」と「不必要」の「不必要」を上回っている。

「必要なし」と回答した

市民には、施設の新設をイメージして「必要なし」と回答した方々が多いようだ。新規建設にこだわらず、既存施設を『公民館』に転用する事も視野に入れる必要があるようだ。

当事者である大間々地域の市民の「無回答」の数値が一番少なかった。また、「必要」とする市民も「不必要」とする市民も、他の地域に比べてその割合が一番多かった。

公民館が設置されている地域からは、「身近な活動拠点として必要」との意見もあるが、「大間々の市民が必要と思うなら」や「合併したのだから笠懸の施設を利用すればよい」といった意見もそれぞれにあった。

教育委員会として、公民館の役割や位置づけについて、検討を進める必要があると考える。

表7 大間々公民館の必要性

みどり市	女性			男性			無回答	総計	
	回答数	割合a	割合b	回答数	割合a	割合b		回答数	割合b
回答者数	233			482			10	725	
ぜひ必要	24	10.30%	3.31%	53	11.00%	7.31%	1	78	10.76%
できれば必要	56	24.03%	7.72%	114	23.65%	15.72%	6	176	24.28%
必要	80	34.33%	11.03%	167	34.65%	23.03%	7	254	35.03%
必要性を感じない	41	17.60%	5.66%	89	18.46%	12.28%	1	131	18.07%
不必要	11	4.72%	1.52%	53	11.00%	7.31%	1	65	8.97%
不必要	52	22.32%	7.17%	142	29.46%	19.59%	2	196	27.03%
わからない	61	26.18%	8.41%	100	20.75%	13.79%	1	162	22.34%
無回答	40	17.17%	5.52%	73	15.15%	10.07%	0	113	15.59%

質問15 図書館の利用について

図書館の利用目的をたずねた設問であるが、「無回答」(57.52%)の市民が最多の質問項目であった。市内の図書館には、相当数の利用者実績があるはずだが、それらを分析・検証しなおす必要があるとともに、図書館利用のPRを行う必要があると考えられる。

利用目的のトップは当然ではあるが「資料借用」。次いで「調べごと」であった。

質問16 図書館への要望について

「蔵書の充実」がトップであり、これは当然のこと。

「レファレンス」が3位であるのは、利用者に対して、レファレンスを含めた図書館の役割を積極的にPRできていないことも考えられる。また、市民の要望に応える際は、蔵書構成や購入計画、購入のための考え方をしっかり持つ必要があり、積極的にこれらの計画を市民に知らせていく事も必要ではないか。

表8 図書館への要望

	1位	2位	3位
みどり市	蔵書の充実	講演会映画会	レファレンスの充実
女性	蔵書の充実	講演会映画会	レファレンスの充実
男性			郷土資料の充実
20歳代	蔵書の充実	児童書の充実	講演会映画会
30歳代			移動図書館の実施
40歳代		講演会映画会	レファレンスの充実
50歳代			
60歳代	講演会映画会	蔵書の充実	郷土資料の充実
70歳以上		郷土資料の充実	移動図書館の実施

ベストセラー本やDVDを望む声が多くあるが、公共図書館はレンタル本屋やレンタルビデオ屋とは異なる。利用者数や貸し出し実績だけに注目することなく、公共図書館としての存在価値を再認識することが必要なのではないか。

#### 質問17・18 岩宿博物館、大間々博物館の利用について

岩宿博物館に関しては、「体験学習」を望む声が一番大きい。笠懸の“岩宿遺跡”からみどり市の“岩宿遺跡”への転換が必要ではないか。

また、大間々博物館に関しては、「楽しめる企画展」を望む声が多数。

岩宿博物館、大間々博物館共に「郷土の歴史」に関する要望が上位にある。みどり市の“郷土史”を2つの博物館でどう担うのか、調整することが必要である。

#### 質問19 笠懸野文化ホールの利用について

男女間に大きな傾向の違いは見られないが、「体験型事業」への要望は男性に、「乳幼児向け事業」への要望は女性（子育て中の20歳代・30歳代）に多くある。

市民を客席と呼ぶ“催し物”だけでなく、市民がステージを使う“事業”を積極的に実施し、ステージと客席を市民に体験してもらうようにする必要があるのではないか。

#### 質問20 日常的な運動（スポーツ）活動の頻度について

35.17%（255人）の市民は日常的に運動（スポーツ）を行っている。その内容は、手軽に運動できる「ウォーキング」が40歳代以上の市民に人気。「グラウンドゴルフ」は60歳代以上の市民に愛好者が多いようである。また、加齢とともに運動（スポーツ）をする方の割合が高くなっている。

運動の頻度だが、週に1回と回答した市民が22.69%。次いで週2回が19.44%であった。群馬県教育振興計画において、「週1回以上の運動・スポーツ実施率」平成25年度の目標値を50%と設定しているが、みどり市の場合の現状では30%程度と推測できる。

#### 質問21 市民体育館への期待について

「健康・体力づくり」や「トレーニングルームの活用」への要望が多くある。また、「初心者教室」を望む声が多くある事は、やってみたい運動（スポーツ）への挑戦の現れではないだろうか。

しかし体育館から距離が離れるほど関心が薄らぐようである。遠い地域の市民の要望をどこまで活かせるか。また、どれだけ利用してもらえるかが今後の課題ではないだろうか。

アンケート内容や他の設問に関しては巻末資料を参照ください。

### 3 . 生涯学習への課題の整理と解決に向けて

「市民アンケート」からは、実際に公民館をはじめとする公共施設の利用や主催事業への参加に関する回答者が多いといえる状況ではありませんでした。また、博物館をはじめとする施設で「体験型学習」に力を入れてきている現状にもかかわらず、要望事項として「体験型学習」を挙げる市民が多くいることも事実であり、居住する地域以外の公共施設の利用経験もその割合が極端に落ちる状況も伺えました。これらからは、施設の利用方法をはじめ、主催事業のPRが市内に行き届いていない状況と、各地域の情報が十分に共有されていない現状が容易に想像できます。知っている人だけが利用できたり、参加できたりする状況では、活動の広がりを期待することはできません。まず、それぞれの情報を共有することが必要と考えます。

市民の身近なところに公共施設があることは、有益なことであり、自動車という交通手段を持たない市民や子どもたちが手軽に利用できる可能性があります。それぞれの地域にすべての施設を設置する訳にはいきません。しかし、このような状況でも、図書館に関しては、公民館図書室を含め各地域に設置され、市民の身近な施設として利用されていることが、「市民アンケート」からも伺えます。図書館の状況を踏まえ、公民館についても、市民に一番身近な施設として整備すべきではないかと考えます。現在、公民館施設の設置がされていない大間々町に関し、その設置を聞いたところ、それぞれの地域において行政区が設置している集会所などの「自治公民館」との混同は見られましたが、《必要》(「必要」+「できれば必要」)とする市民の回答が、《不必要》(「必要性を感じない」+「不必要」)とする市民を8ポイントほど上回っていました。この割合は、公民館の利用経験を有する市民と比較すると14ポイントも上回っていました。合併前、それぞれの町村の施策の違いがあったことは事実ですが、みどり市としての考え方が必要になります。

市民の学習・文化・スポーツ活動の現状を参加人数や利用者数だけで評価することはできません。学習の質や深まり、内容、学級や講座、サークル活動などに参加できない市民へのサービス、活動がどのようになっているのかが問われます。また、公共施設を利用しない学習活動がどのように行われているのかも大切な問題です。このことは、生涯学習の目的である「いつでも、どこでも、だれでも、自由に学べる生涯学習社会の実現」に向けた振興計画の策定には不可欠な条件といえます。

生涯学習の基本は、市民個々の自発的自主的意志に基づく学習活動であることは繰り返してきましたが、「いつでも、どこでも、だれでも、自由に学べる」生涯学習社会の実現は、「市民アンケート」の結果や分析などからは、まだ遠い目標であるように感じます。

計画とは、目標に向かってのプロセスであるといわれます。そのために、計画には目標の設定が不可欠となり、その目標達成のために関連する必要事項、解決すべき課題などを体系的に組み込むことで成立します。目標の設定も解決すべき課題の洗い出しも大切なことですが、行政計画の場合「公平性」「一貫性(継続性)」「普遍性」といった独自の枠が加わります。このことで目標

が抽象的になったり、解決すべき課題が公共的課題や今日的課題といわれるものに終始したりと、示された計画が実は市民一人ひとりにとってあまり魅力的なものでなく、市民に無縁な計画になる危険性があります。

この計画は、こうした落とし穴を十分に視野に入れ、着実に実行でき、市民からも支持される生涯学習の振興計画をめざしています。

「生涯学習」という言葉はよく耳にする言葉となっているようだが、生涯学習の考え方について、正しく理解している人の割合が3人に1人という現実から、“生涯学習”に対する啓発活動を推進する必要があります。

8割を超える市民が学習希望を持っているのに対して、2割程度の市民しか学習行動を行っていないという現実と、身近な施設で学習したいとする要望を踏まえた、学習環境を整備する必要があります。

学習障害要因、学習希望の調査結果に基づき、市民個々の生涯各時期、各段階におけるきめ細かな学習機会の提供が求められています。

個人の学習を支援するための学習相談事業や学習情報のネットワーク化など、学習活動支援体制の確立が求められています。

学習が行われることにより、学習目的の変化、学習の深まり、広がりなど個々の学習に対応した段階的な学習支援体制が求められ、教育関係施設の連携はもとより保健、福祉関係施設などとも連携が不可欠と考えます。

行政職員、社会教育関係職員、教員などへの生涯学習に対する理解と学習援助者、支援者としての資質の向上が必要となっています。